第2回第6次総合計画等策定委員会議事録

１　開催日時

令和2年7月29日（水）午後3時～午後5時

２　会　　場

真室川町役場3階会議室

３　出 席 者

委員12名（全員出席）、町長（挨拶のみ）、事務局（企画課）

４　議　　事

（１）真室川町人口ビジョン（改訂版）（案）について

○地域、町ごとに異なる条件を加味して算定するべき。本町に限ったことではないが、出生率を上げる前に婚姻数などを上げていかなければいけない。

○国の長期ビジョンは主に都市部を前提にしたものではないか。国に準拠するのではなく町独自の推計を行い、それに見合った政策を立てていくべき。

○町の推計の仕方は妥当ではないか。社人研の推計も参考としながら、少しでも人口を増やすための努力が必要であり、人口減少を緩やかにしていかなければならない。

○40年後の人口がどう変化するか、時流によって変わるのではっきりは分からないが、今回のコロナのように、一極集中で大きな影響を受けた都市部から安全で暮らしやすい地方へ移りたいという人がもっと増えるかもしれない。

○希望も込めて、人口減少がもっと緩やかになるような政策・考えを持った方がよいのではないか。

○対策や戦略を練る上では、より厳しい数字を基準とするべきではないか。

○国の長期ビジョンは参考になるが、町独自で、短期的長期的な変化を見通しながら、現実に沿う形の計画が必要ではないか。計画を実行していく上で、あまり大きな数字の乖離が生じないような形での策定が必要。

○国の長期ビジョンも分かるが、町独自の条件などを取り入れて作った方がいいと思う。ただ、乖離が大きくなりすぎても困るので難しいところではある。

○町独自あるいは最上広域としての推計を一度出してみるべき。その上で今回算定した数値と乖離が大きいようなら、より低い方の数値を見通しとして採用し、目標を高く設定するほうが活動しやすいのではないか。

○今回の人口ビジョンは、なぜ目標ではなく展望という扱いなのか。

☞（事務局回答）
　人口ビジョンの人口推計を行う上で基となっているのが社人研の推計であるが、5 年前と今回では社人研の考え方が変化している。さらにまた 5 年後に改定する際も社人研の考え方が変わってしまうことも考えられ、そうなると目標の根拠が常に変化してしまう。一方、国の長期ビジョンは、すべての自治体が一律の出生率や移動率になった場合に 2060 年でも 1 億人の人口を確保できると想定しているが、本町もそれと同じ前提にすることで、社人研の示した 1,800 人という推計値と町の推計値である 3,500 人の間、あるいはできるだけ 3,500 人に近づけるような形で施策を推進していくのがベストと考えている。そういった意味で、現段階では目標ではなく展望としてお示ししている。

○では、この段階では目標という言葉は出ないのか。

☞（事務局回答）
　市町村によっては、2060 年までの見通しではあまりに先が長いので、10 年後の人口はこうありたい、というような示し方をしているところもある。本町ではどのような形で示すのがよいか、皆様からご意見をいただきたい。

○出生率や結婚の問題など、町の置かれた状況に見合った町独自の推計を行ってよいのではないか。あまり厳しい見通しでは町民の方も不安になるので、国の長期ビジョンとのバランスは必要だが、町独自のものが必要かと思う。

○社人研の推計は平成 27 年国勢調査に基づいているが、それから 5 年経って更に人口減少の状況は進展している。このタイミングで人口ビジョンを改定するのであれば、町の実態に合ったものを作ることが必要。また町独自の基準だけでなく、県内の動向や指標を踏まえて策定するべき。

委員長総括
　事務局が提示した案は、社人研の推計と国の長期ビジョンに準じた条件での推計に基づく展望であり、根拠がはっきりしている一方で、各委員からは町や県の実情を踏まえた数字を出したほうがよい、という意見が多かった。出生率や社会移動の状況などをどう考えるか、いくつかのパターンで算出してみた上でどの数値を採用するべきかなど、今日のご意見を踏まえて町で検討していただきたい。

（２）総合計画等基本構想（案）について

○自分なら住みよい町に何を求めるかと考えたときに、水・緑・森など心安らぐ場所、くつろげる場所のイメージが思い浮かぶ。

○総合計画は 10 年間の基本構想と 5 年間の基本計画からなっているが、それとは別に、もっと長期的な 100 年先、200 年先の姿というものも思い描いておかなければいけないのではないか。

○いきなり長期的な目標（＝目指す将来像や基本目標）に向かっていくことは難しいので、一歩ずつ階段を上るようなイメージで短期目標（＝政策、施策）を設定し取り組んでいくような表現なら分かりやすいのではないか。

○町民一人ひとりが個性を発揮できる町づくりが、住みやすさにつながると思う。今までとは見方を変えた政策にすることも必要。幸せの感じ方は人それぞれだが、それをうまく取り込んで基本目標を達成できるよう、抽象的なキーワードから具体的なキーワードにしていくといいのではないか。

○大きな問題だけでなく、戸数の少ない集落をどうしていくかなど、足元の課題をしっかり捉えて考えていかなければいけない。

○キーワードについては、何かしら光る魅力や夢・希望がないと若い人たちをがっかりさせてしまう。転出した人たちが、故郷に帰りたいと思えるような町をつくってもらいたい。

○真室川町は古いものが残らない。自然や景観等に町民の関心が向かない。後世に何か残そうとするなら、真室川音頭のように、そのものにまつわる物語を残していくことが大切であり、それらが観光に結びついたり、町民の誇りになったりする。

○また観光物産という観点では、たくさんの方に真室川町を体験してもらい、もう一度真室川町に来たいと言ってもらえるものを探して継続していかなければいけないが、それには梅里苑以外の宿泊所の数、キャパシティが少ないので、そういった産業を振興するなどの目標があってもいいのではないか。産業と観光を一体化に推進していけば、もっと交流人口増加に結びつくのではないか。

○町の名前にもなっている「川」に関連するようなキーワードがいいのではないか。都会とは違う、田舎の良さを活かせるような計画を立て、それをイメージできるようなキーワードを取り入れていければいい。

○住民アンケートでは、移住定住や地域活動などの分野で住民の満足度が低い。若い人も安心して暮らせるよう、弱い部分に焦点を当てたキーワードを掲げて、満足度の高い分野とのバランスを取っていくことが重要ではないか。

○10 代、20 代の人に響くキーワードを取り入れたい。どの政策を優先するかの判断は難しいが、町の将来像を決めるということならば、若い人向けに優先順位をつけて考えて欲しい。

○外部から来た人は、町の雰囲気がどんよりしていると言っていた。閉塞感を解消していかなければいけない。一方で町ならではの良いところも探せばたくさんあるので、都市部との明確な差別化ができて、なおかつ真室川の課題と向き合えるキーワードがあればいい。

○体系図の中で、政策のうち「情報ネットワーク活用の推進」は、自立を目指す町づくりではなくインフラ政策にあたるのではないか。また計画の体系自体はいいが、5 つの基本目標ごとに縦割りの取り組みにならないよう、関連する分野同士、横の連携をしっかり取りながら進めてほしい。

☞（事務局回答）

「情報ネットワーク活用の推進」の分類について、事務局の意図としては、前回書面会議でいただいたご意見で、交流促進や情報発信が弱いという指摘もあったのでこのような分類にした。ローカル５G 等の整備という観点であれば、ご指摘のようにインフラ政策としての側面が強くなるので、今後整理して行きたい。また 5 つの基本目標をどう連携づけて展開していくかについても、必要なことと認識している。

○都会から田舎に移りたいという人は多い。今のコロナ禍の時代に、若者は自分たちで様々な働き方を見つけてくる。都市部にいなくてもできる仕事を自分たちで持って来ることができるので、うまく定住につなげてほしい。

○自分の会社の話になるが、求人に対し都会からの問い合わせが増えている。しかし真室川にはアパートなど住む場所が少ないので、住環境の整った他の自治体に流れていってしまう。真室川は人口が減っているのに新しい人が入ってくる環境がないので下がる一方になっている。定住・移住の促進や居住環境の向上などは、もっと上位に掲げるべき政策ではないか。また先ほどの意見にもあったように、5 つの基本目標同士の連携をもっとアピールするべき。

○細かい部分になるが、基本目標の表現として「～のまちづくり」ではなく「～のまち」とするべき。

○今日の会議のことを周囲の人に話したが、町民が総合計画のことをほとんど知らない。周知の仕方を工夫してほしい

○具体的な施策については作成中ということだが、その部分に基づいてキーワードや優先順位をつけていくべきと思うので、しっかり精査した上で作り込んでほしい。

○定住・移住の推進について、昨年度協議会で様々な検証を行ったが、現在どのように進捗しているのか。

☞（事務局回答）
昨年度に移住定住推進協議会から事業提案をいただいたゲストハウスの運営については、行政の力だけでは難しい部分もあり、地域おこし協力隊の制度を活用して実行していこうと募集をかけていた。残念ながら、まだ隊員の採用に至っていないが、先ほどからご意見をいただいているように住環境整備は重要な課題であるので、しっかり対応していきたい。

○第 5 次計画の反省は第 6 次計画に活かされているのか。

☞（事務局回答）
第 5 次計画の評価について、昨年が 5 か年計画の中間年であったが、その時点で 85 の指標のうち約 6 割で 80%以上の達成度になっている。しかし、そもそも目標の設定の仕方が正しかったかも含め、役場の内部評価だけでなく外部評価も必要と考えている。来年から 6 次計画がスタートするが、外部の方の意見をお聞きする場を設けていきたい。

○誰に向けてのスローガンなのかを意識してほしい。個人的には「輝く」「明るい」「元気な」などの言葉は逆に暗いイメージを持ってしまうので、それ以外の言葉を選んでいただきたい。

委員長総括

計画の全体的な整合性という点では、目標があって政策があって、という枠組みを作ることになるが、その中でそれぞれの政策が連携しながら、住民の視点に立って計画を一体的に推進する、ことを意識した計画づくりが必要である。

町長は、この計画が職員の教科書になるように、と仰っていたが、町民の教科書になるのが理想。町民一人ひとりが、この計画に基づきどのように行動していくかを意識することが大切である。

（３）その他

○最近の事だが、役場のとある部署にコロナ禍で対面式の会議が難しいのであればリモート形式で、と提案したら、やったことがないという理由で実施されなかった。ICT の活用については役場が率先して取り組んで欲しい。

☞（事務局回答）
役場でもリモート会議等ができる設備・環境は整っている。

以上